熏風
～教育委員会だより～
第十二号　平成三十年三月十五日（木）
河内長野市教育委員会

持続可能な社会教育システムの構築へむけて

～環境の変化、現在的課題と人材の確保～

いま、社会教育・図書館には「人々のくらしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築」が求められています。

国は社会教育・図書館を取り巻く環境変化と現状課題として、少子高齢化と人口減少、グローバル化、地域コミュニティの衰退、貧困と格差、技術革新と第４次産業革命、社会教育の提供主体の多様化や地方行政改革と厳しい財政状況（国・地方の長期債務残高 972 兆円）を指摘、新聞では、中高生の読解力不足による社会生活への影響（国立情報学研究所研究チーム　平成 28・29 年調査）が報道されています。

このような現状・課題を踏まえ、社会教育・図書館に
①地域コミュニティの維持・活性化
②高齢者・障がい者・外国人・困難をかかえる人々の社会包摂への寄与
③社会で求められる能力の変化への対応
が期待されています。

そして、持続可能な社会教育システムの構築は、学校、首長部局、NPO、民間教育事業者等の多様主体、民間の資金やノウハウの活用による社会教育行政のネットワーク化と官民パートナーシップの推進、地域課題解決・学習活動対する「学びのオーガナイザー」と社会教育主事の養成と活用、交流人口の拡大・地域活性化・施設の老朽に伴う更新による新しい「学びの場」と社会教育環境の変化に対応した社会教育施設の運営・整備が主要な視点と考えています。

図書館では、これらの状況に対し、平成３１年度から改定する「図書館の基本的運営の方針」の中に次の５点を盛り込みたいと考えています。

１．地域の課題解決学習による学びの成果を活かした地域づくりにより地域コミュニティの維持に貢献し、施設の特性に応じた交流人口拡大と地域の活性化（→定住人口の向上）に寄与する。

２．地域課題の解決に向け、社会で求められる能力の変化に対応した学習機会を提供し、地域住民が学び、交流する拠点（地域コミュニティの創出）としての役割を担う。

３．他図書館との相互資料貸借の充実や企業等と連携した地域課題解決に資する講座の開設などによって、より実践的な知的サービスを提供する。

４．アウトリーチ活動を充実させることにより、誰に対しても読書の機会を提供し、地域のニーズに積極的・能動的に応える。
５．学校ボランティアをはじめ学校・幼稚園・保育所等と連携・協力し子どもたちに多様で豊かな学習・読書機会を提供する。

さて、持続可能なシステムの構築には行政単独ではなく、ともに社会教育・図書館活動を行う団体・ボランティアの支援・協力がより重要となってきています。しかし団体・ボランティアで活動していただいている方々の高齢化により構成員が減少し、団体の存続の危機も懸念され、大きな課題となっています。そこで、団体・ボランティアや行政が行う養成講座・人材の募集時に次のような視点を加えることができないかと考えています。

超長寿化社会で現役期間が延び、活躍を続けるために「学び」は避けて通れない世の中で、キャリアの転機や定年退職が視野に入る４０、５０代のミドル世代の切実さは増し、仕事に必要な「リカレント教育」の存在感が高まってきています。自分のキャリアは会社が用意してくれるのではなく、自主的に考え、自ら切り開いていくことが当たり前の時代となってきています。自分の意思で何らかの学習に取り組んでいる割合は 45～49 歳、50～54 歳でそれぞれ 11%、9%（平成 29 年：雑誌「ケイコとマナブ」調査）に留まっています。まだまだ「リカレント教育」の伸び代があると考えられます。

そこでミドル世代に対して「リカレント教育」の一環として「パラレルキャリア」を PR しアプローチするのも人材の確保・養成に効果があるのではないでしょうか。「パラレルキャリア」とは、複数の仕事を掛け持ちしたり、ボランティア等の活動に携わったりする活動をいいます。自分らしいライフスタイルを実現しようと考える若者を中心に浸透しはじめていて、ミドル層でも関心が高まっているとのことです。社員が社外活動に携わることを推奨する企業も増えてきていて、「企業の社会的責任活動」の一

環で、社員をNPOの支援活動に参加させるプログラムを実施している企業もあります。また、団体の運営や国際的支援活動といったものだけが「パラレルキャリア」活動ではなく、少年野球のコーチやPTA活動、絵本の読み聞かせ等も本業に行かせる社外活動といわれています。人材サービス会社ユーザー調査（35歳以上、平成28年：エン・ジャパン）では、58%が「パラレルキャリア」を実践したいと回答、実践している方はそのメリットとして「新しい人間関係を構築できる」（61%）、「普段と違う業務でスキルが身に付く」（54%）と回答しています。

以上のようにアプローチの角度を変えることにより人材を発掘していくことは、大切なことではないでしょうか。

（写真：平成28年11月6日開催、「読みメン」講座、絵本の読み聞かせ実演は図書館長）

（文責：生涯学習部　図書館長　森下　悦次）